

重要

ノロウイルスなど感染性胃腸炎 の対応について

手洗いは感染症予防の基本です。

石けん自体には消毒効果はありませんが、手の汚れを落とすことにより、細菌やウイルスを手指からはがれやすくする効果がありますので丁寧に洗いましょう。

手洗いは、15秒以上かけて洗うと効果的です。

手を洗うのはどんなとき？

- ・ 外から帰った時
- ・ トイレを使用した後
- ・ 調理の前
- ・ 食事の前
- ・ おう吐、下痢をしている人のお世話や処置をしたとき
- ・ おむつ交換をした後
- ・ 使い捨て手袋を脱いだ後

手洗いミスの発生部位



出典：日本環境感染学会監修 病院感染防止マニュアル(2001)

汚れが残りやすいところ

- ・ 指先
- ・ 指の間
- ・ 親指の周り
- ・ 手首
- ・ 手のシワの部分

洗い方

★時計、指輪などをはずし流水でぬらし、石けんをよく泡立てる。



★指の間を洗う。



★親指も洗



★手のひらと甲を洗う。



★手首も洗う。



★指先と爪の間も洗う。



★蛇口も石けんで洗う。流水でよく洗い流す。



★塩素系消毒液の作り方 薄める前に濃度を確認してください。

薬品濃度	200ppm 消毒液	1000ppm
1%	50 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 20ml を入れる	10 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 110ml を入れる
5%	250 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 4ml を入れる	50 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 20ml を入れる
6%	300 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 3.3ml を入れる	60 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 17ml を入れる
10%	500 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 2ml を入れる	100 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 10ml を入れる
12%	600 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 1.7ml を入れる	120 倍に薄める 水 1ℓの中に原液 8.4ml を入れる

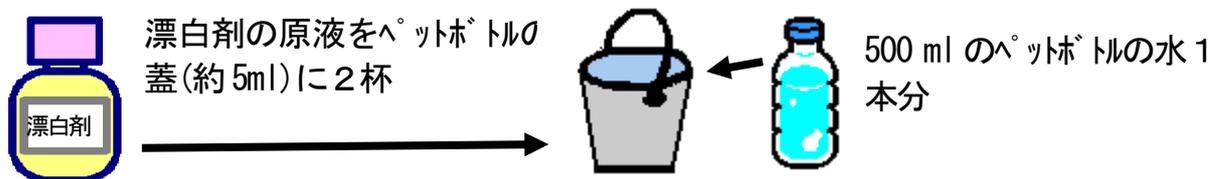
【例】市販の漂白剤を薄めて塩素系消毒液を作る場合

※ペットボトル(500ml)は計量容器としてのみ使用し、別の容器で薄めて使用してください。

作り方のおよその目安

1000ppm の消毒液の作り方

❁ 嘔吐物・便で汚染された場所や衣類の消毒



200ppm の消毒液の作り方

❁ 調理器具、床、トイレの便座・ドアノブなどの消毒



★便や嘔吐物の処理方法

準備しておく物品

- 使い捨ての手袋・マスク・エプロン
- ビニール袋
- 拭き取るための布やペーパータオル
- 塩素系消毒薬（希釈した次亜塩素酸ナトリウム）
- 専用バケツ



①汚染場所に関係者以外の方が近づかないようにします。

②処理をする人は使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着用。
腕時計・指輪等を外しましょう。



③おう吐物は使い捨ての布やペーパータオル等で外側から内側に向けて、拭き取り面を折り込みながら静かに拭き取り、すぐに、ビニール袋に入れ処分します。

※ビニール袋に1, 0 0 0ppm次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度に入れるとよい。



④おう吐物が付着していた床とその周囲を、1, 0 0 0ppm次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませた布やペーパータオル等で覆うか、浸すように拭きます。

※カーペット等は色落ちすることがあります。

※次亜塩素酸ナトリウムは鉄などの金属を腐食するので、拭き取って約10分たったら水拭きを！



⑤使用した着衣は廃棄が望ましいが、消毒する場合は下記の手順で行います。

- i) 付着したおう吐物を取り除く（手袋着用）。
- ii) 熱湯につけるか、2 0 0ppmの次亜塩素酸ナトリウムに3 0～6 0分つける。
- iii) 他のものと別に洗濯機等で洗濯する。

⑥手袋は、付着したおう吐物が飛び散らないよう、表面を包み込むように裏返しては
ずします。手袋は、使った布やペーパータオル等と同じように処分します。

⑦手袋をはずした後は、手洗いをします。

便やおう吐物、処理に使った手袋やペーパータオル等を捨てる廃棄用の袋は、入れやすいようにあらかじめ口を広げておきます。



ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎

★ノロウイルスについて

感染性胃腸炎、食中毒の原因ウイルスとして知られています。季節的には秋口～春先に発症者が多発しています。患者の便やおう吐物の中には大量のウイルスが含まれており、少量のウイルスでも感染します。このため、ウイルスに汚染された手指や器具、汚染された場所を手で触っても、口から入り感染することがあります。

症状

- ・ 下痢
- ・ 嘔吐
- ・ 腹痛
- ・ 軽度の発熱 など

感染後、24～48時間で発症し、急性胃腸炎症状を起こします。

多くは数日で回復しますが、乳幼児や高齢者、体が弱っている方等では脱水等により重症化することがあります。

ノロウイルスは症状がなくなった後も約1週間、長い時には3～4週間程度、便の中に排出され続けます。

感染経路

- 感染者の便・おう吐物を処理した後、手についたウイルスや、不適切な処理で残ったウイルスが、口から取り込まれ感染（手洗いが不十分など）
- 感染した人が、十分に手洗いを行わずウイルスが手についたまま調理すると、食品が汚染され、その汚染された食品を食べた人が感染
- 飛沫感染
- 人の便中のノロウイルスが、下水を経て川から海へ運ばれ、二枚貝に蓄積され、それを十分に過熱しないで食べ感染

★消毒のポイント

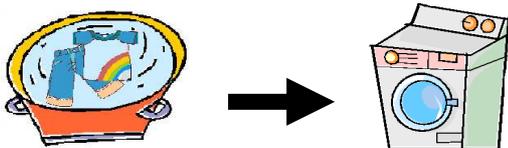
ノロウイルスの場合、効果のある消毒は塩素系消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム）と加熱（85℃、1分以上）です。

消毒用アルコールや逆性石けん（オスバン等）は効果が確実ではありません。

★便やおう吐物が付着した衣類・シーツ・タオル処理方法

リネン等は、付着した汚物を除去した後、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いします（その際に、使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着用し、汚物に触れたり、しぶきを吸い込むなど感染しないように防護が必要です）。

汚物を十分に落とした後、約1000ppmの塩素系消毒薬に約60分間浸します。その後で、他の物と分けて最後に洗濯しましょう。



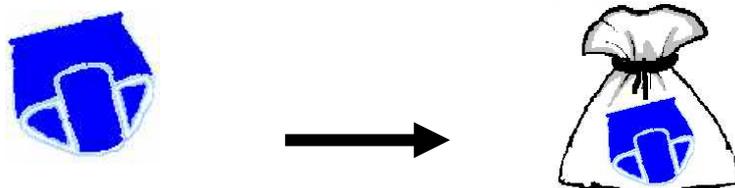
あるいは、熱湯（85℃、1分以上）で熱湯消毒します。



*塩素系消毒薬は、色落ちすることがあるので、ご注意ください。

★紙オムツの処理方法

おむつは交換後に内容物が飛び散らないように、速やかに閉じて便等を包み込み、ビニール袋に入れましょう（この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の1,000ppmの塩素系消毒薬を入れることが望ましい。）複数の方のおむつを交換する時は、一人の処置ごとに必ず手袋を取り替えましょう。



★環境の消毒方法

トイレ周辺、手すり、カーテン、日用品等からもウイルスが検出されます。感染者が発生した場合は、定期的に清掃し、約200ppmに薄めた塩素系消毒薬などでこまめに拭きます。

例) トイレ（便座、水流レバー、ドアノブ、便器の周辺の床や壁）
手すり、ドアノブ、水道の蛇口、机、イス、引き出しの取っ手、
車椅子、ベッド回り、三輪車、幼児お散歩用キャリー、おもちゃ
等

*塩素系消毒薬は、鉄などの金属を腐食するので、拭き取って10分程度たったら水拭きします。

★食器・調理器具の消毒方法

施設の食事の調理、配食等をする部署に感染者の使用した食器類やおう吐ぶつが付着した食器類を下膳する場合、注意が必要です。可能であれば食器等は、厨房に戻す前、食後すぐに約200ppmの塩素系消毒薬に浸し、消毒します。

また、食器等の下洗いやおう吐後にうがいをした場所等も200ppmの塩素系消毒薬で消毒後、洗剤を使って掃除をするようにしてください。



★その他注意することは？



入浴はまずおしりをせっけんでよく洗ってから入ります。
症状がある時は、シャワー浴か入浴を控えましょう。
回復後は、入浴順番を最後にしましょう。

バスタオルや手ぬぐいは、自分専用のものを使い、他の人との共用はやめましょう。



ビニールプール等を利用して水遊びをする時には、こまめに水を入れ替え、使用時ごとに水を交換しましょう。また、下痢気味のヒトは水にはいらないようにしましょう。

